

工

9

山形県下農家改良構造仕様

066570-000-1

工-9

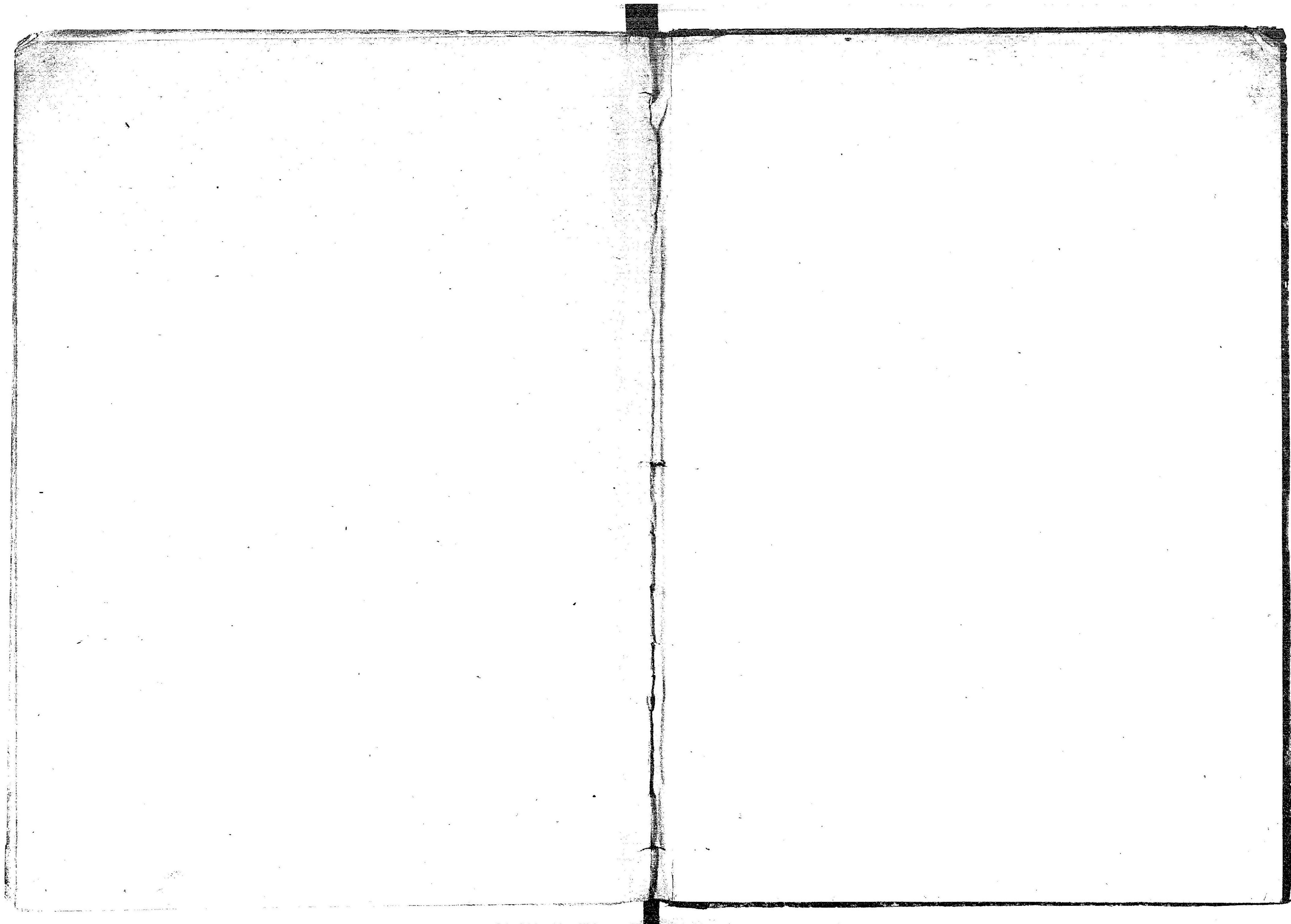
山形県下農家改良構造仕様

震災予防調査会

M28.7

CDC-0234





○農家改良構造仕様

一 梁間四間 平家建茅屋一棟

一 桁行八間 軒高土臺石上端より梁下端迄拾二尺三寸

附 屬

一 長一間半

吹下し物置一ヶ所

但し雛形は之を畧す

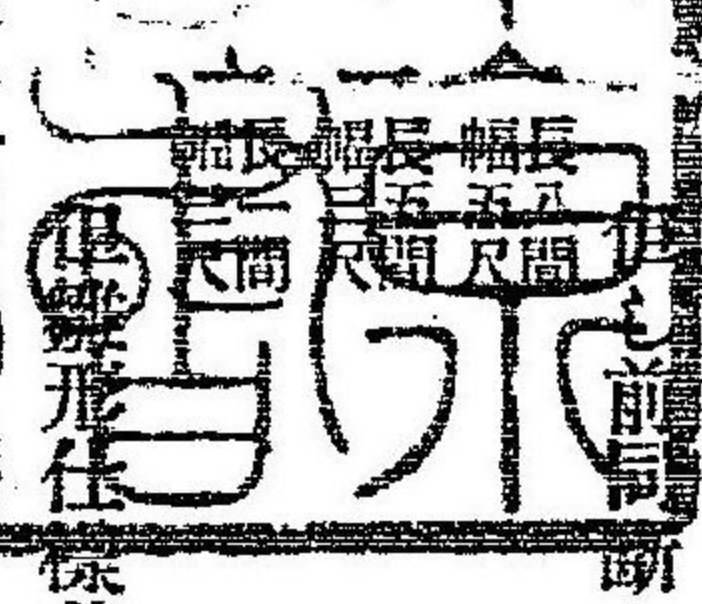
一 幅三間

吹下し流し一ヶ所

椽側一ヶ所

吹下し椽側并押入一ヶ所

便所一ヶ所



柱五寸角深さ土質に應じ適宜に壺堀し割栗石目潰砂利
共入り壁固に突固め丸石横差し一尺三寸以上据付け廻り埋固め束下
大さ一尺角深前同壺堀し前法に倣ひ突固め丸石横差し五六寸以上
据付けへし

一 柱五寸角小屋内迄建登せ(若し樫柱を使用する場合)土間の所抱合せ同隅の
所遺違に建て脚固め土臺石上約一寸の處へ栗二寸桁行梁間成違に
柱前後より抱合せ五分ポールのにて締付け継手は柱の左右へ當物を
なし第二圖の如くなすべし脚固め兼用根太掛二寸前同様成違いに
柱の前後へ抱合せポールの繼手共前同斷内法長押并に土間胸繫二寸

共成違仕方前同斷廻り仕切地付小壁共壁下は筋違^{四寸}上柱へ
少しく缺込み手違ひ餘にて取付くへし

一 小屋梁松丸太末口七寸面ら付貳つ割柱へ抱合せ五分ポールのにて締
付け桁行并に梁間小屋内筋違松四寸角上下八番鐵線八重に巻付け木
捻子にて押へ二重梁松丸太末口六寸面ら付貳つ割并に桁行繫き五通
り共縦横に小屋束又は柱へ抱合せ四分ポールのにて締付け継手の處
當物仕方前同斷軒桁^{四寸}母屋丸太末口五寸面付け棟松丸太末口四寸
共繼手第三圖の如くし置渡し隅挾松丸太末口五寸面付け貳つ割にし
て小屋束へ抱合せ五分ポールのにて筋違いに締付け隅々火打梁松丸
太面ら付仕掛け同くポールのにて締付け登り合掌松丸太末口五寸仕
掛け上み合缺に組合せ八番鐵線卷前同斷梁毎に五分ポールのにて締
付け土間上は小屋束四寸角を用ひ下端鐵線止め前同斷隅木松太丸末
口五寸仕掛に家中竹七寸廻り一尺二寸間垂木竹四寸廻り六寸間共結
付け簀竹三寸廻り簀付け茅厚隨意に葺上げ棟飾り仕付け兩妻空氣抜
粹羽目板共差立取付くへし

一 化粧軒肘木受^{五寸五分}柱毎に五分ポールのにて取付け肘木^{四寸五分}平
柄にして鼻栓止めをなし柱の處蟻に仕掛け出し桁^{四寸}小返を付置渡
し化粧隅木^{五寸}木造り取付け垂木^{二寸四分}上方桁下端へ差込み廣小
舞^{四寸}共取付裏板厚五分打付け前後庇柱四寸五分角後側上下脚固め
共本家同様に取付け前後共繫梁^{二寸五分}本家并庇柱へ左右より抱合

雨辰天後防漏蓋

せ四分ポルトにて締付け桁松^{四寸五分}置渡し垂木掛^{二寸}ポルト前
同断取付け垂木^{二寸四分}廣小舞^{一尺二寸}共取付け裏板厚五分打付け土居
菅の上瓦葺すべし

一物置并流し本家へ取付方并脚固等は前項に準じ構造すべし

一床か根太^{四寸五分}一尺二寸間に取付け床か板厚一寸張立つべし

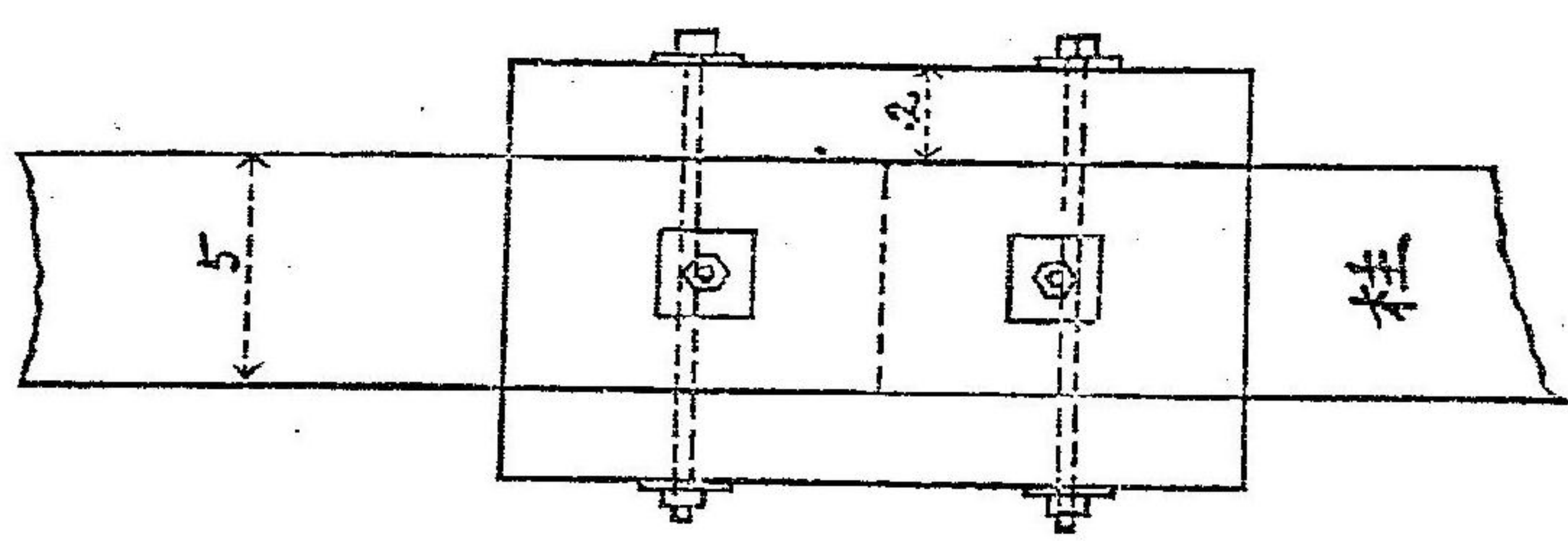
一天井長押^{四寸五分}木捻子にて取付け廻り椽二寸角竿椽一寸二分角取付

け天井板四分張立つべし

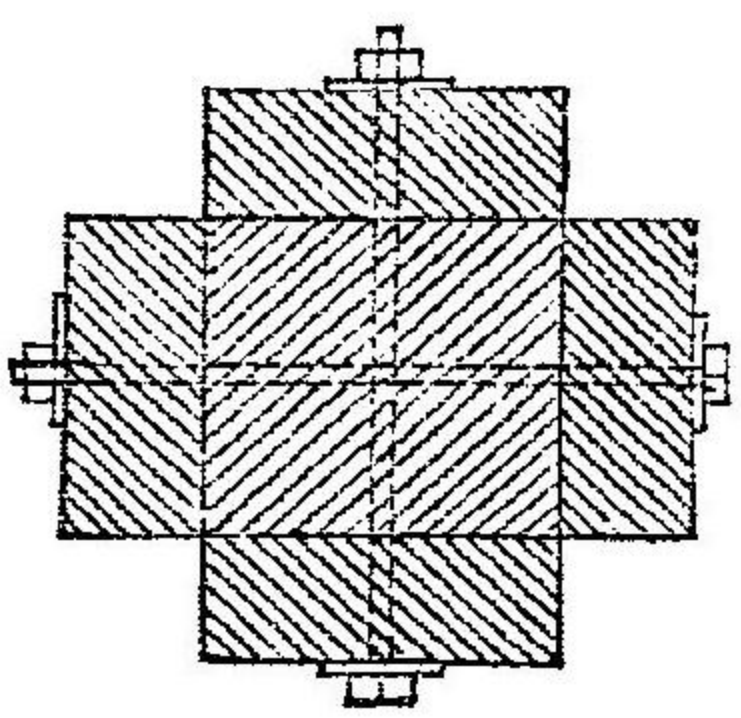
一内法敷居^{二寸五分}片納込椽にて取付け鴨居^{四寸五分}釣木^{二寸}寄蟻に取付け
土間入口換敷居鴨居^{二寸四分}木捻子にて取付け同處脚固め上端包板厚一
寸打付くべし

一廻り、仕切、小壁共壁下地胴椽^{二寸}一尺五寸間に柱并に筋違いへ彫
込み取付け塗下地杉厚五分巾約二寸に挽割り鋸目付け三分明きに打

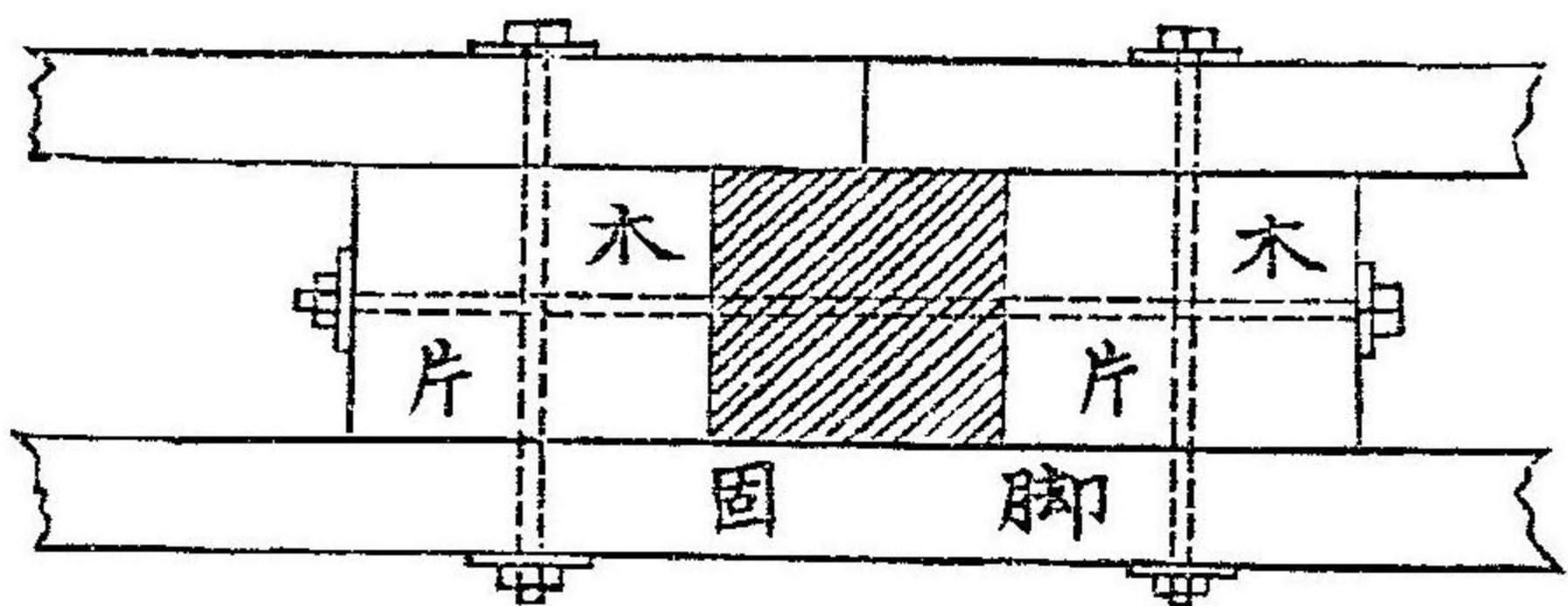
第 壹 圖



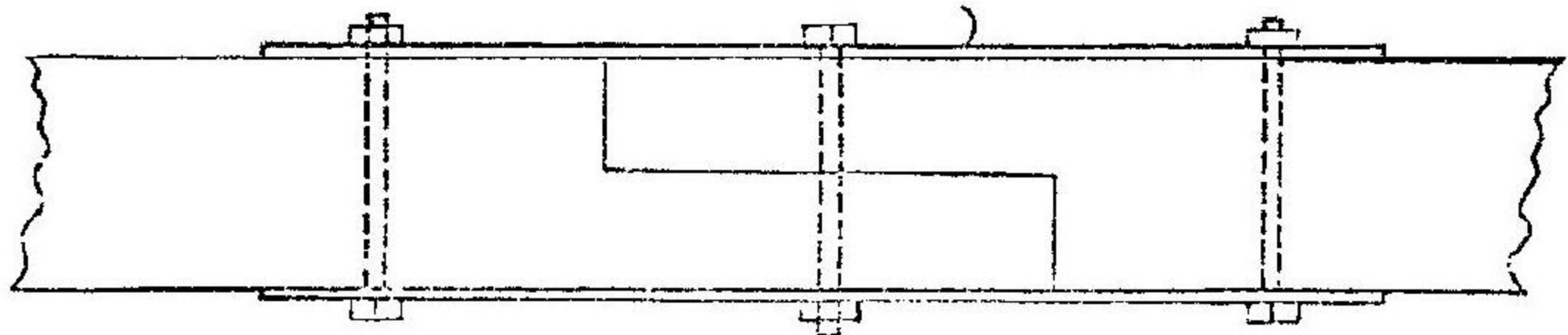
一分拾もれ何度尺



第 貳 圖



第 參 圖



鐵座

付下葺四方五寸間に打下塗漆喰村直し中塗漉し土上塗漆喰又は土塗
にすべし

一椽框^{三寸五分}束四寸角框わなき込み仕合取付け椽板厚一寸二分鏝にて
張立後側雨戸敷居鴨居^{二寸四分}ポルトにて締付け上無目^{二寸束}
^{三寸五分}寄せ蟻に仕合せ綿板厚五分廻り四分一止めに取付くべし

備考

一本按の地繪圖は普通農家の間取を採用したるものにして別に更正を
加へず又建繪圖及切斷圖は大體の構造を示すに止まり造作其他特殊
に非ざるものは之を省略せり

一雛形に於て柱梁等に深く切込みたる所あるは製作人の過失なり實際
は成るべく用材を傷げざる様施工すべし

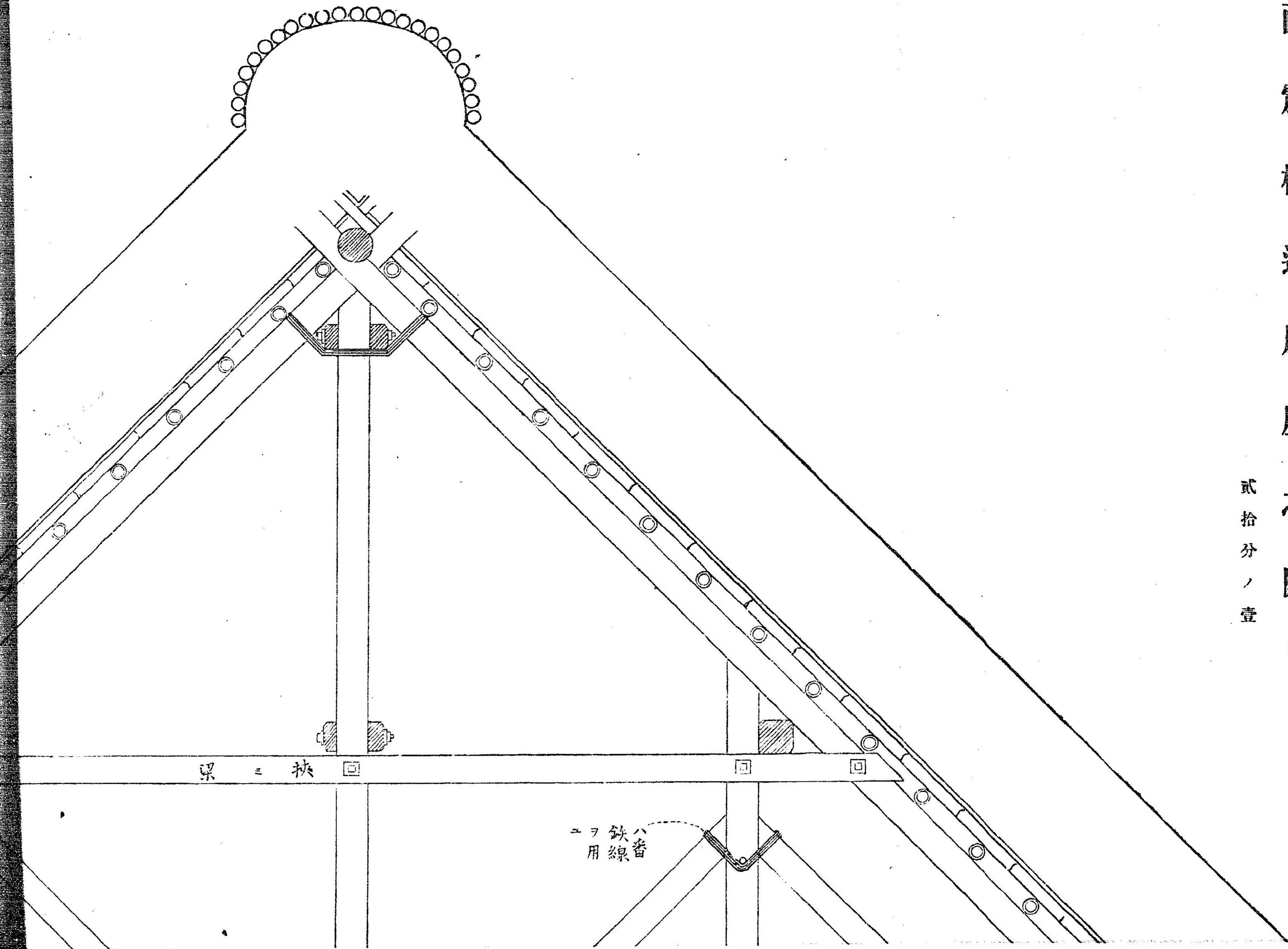
一本按は構造上多量の材料を要し普通農家の資力に適し難き場合ある
べし然るときは大體に於て之に準じ多少取捨す可し例之は土間の柱
は抱合なるも之を省略して一本建となすが如し然れども尚ほ普通の
構造に比すれば大に堅牢なるものなり

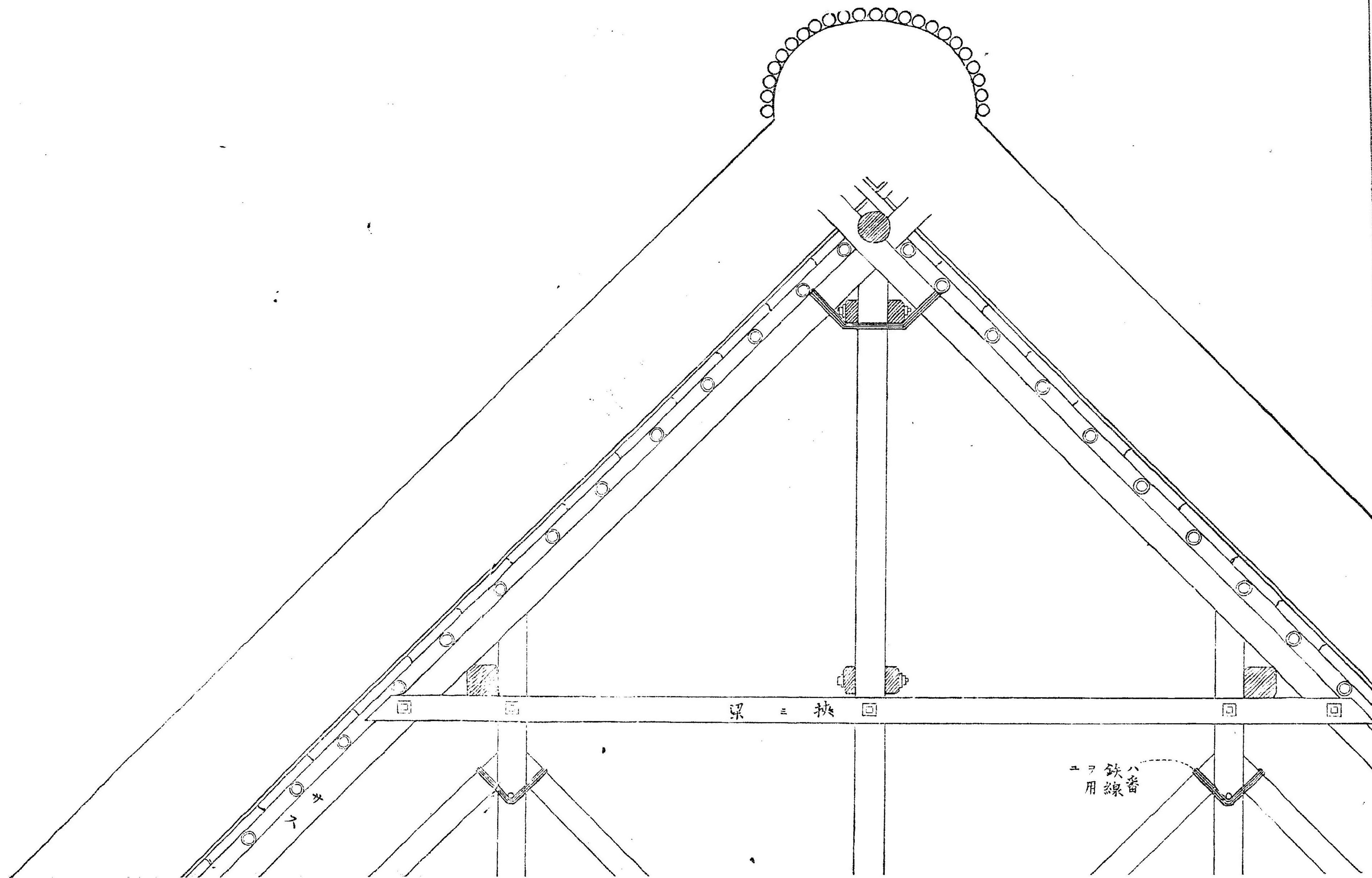
一本按の根太受は六尺間なれども三尺毎に束を建て大引を設くるも妨
げなし然るときは根太の寸法は二寸角にて足れりとす

一仕様に間仕切壁は木摺と示したれども便宜上木舞を用ゐるも差支な
し其場合に於ても成るべく筋違を使用すべし

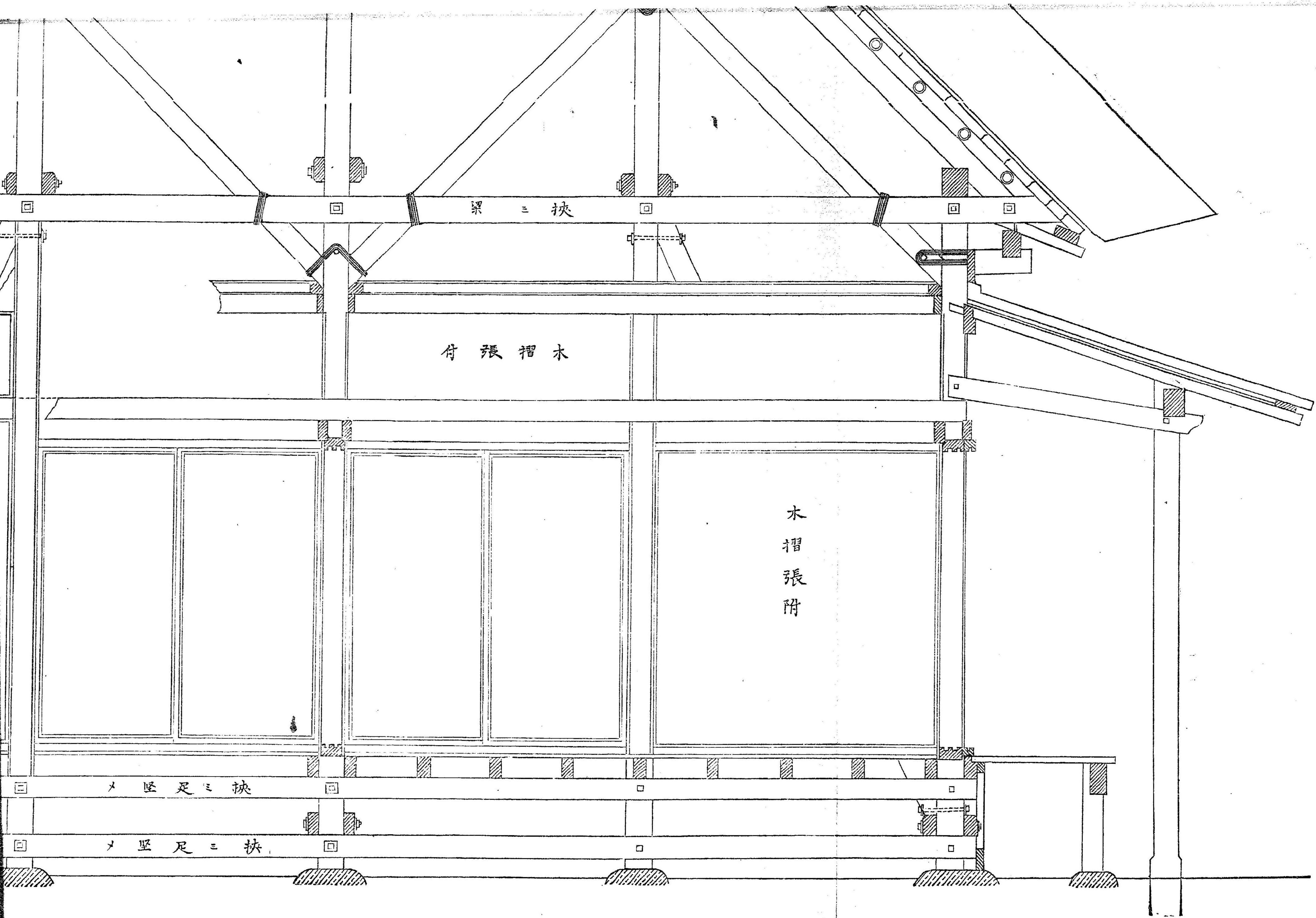
耐震構造農屋之圖甲

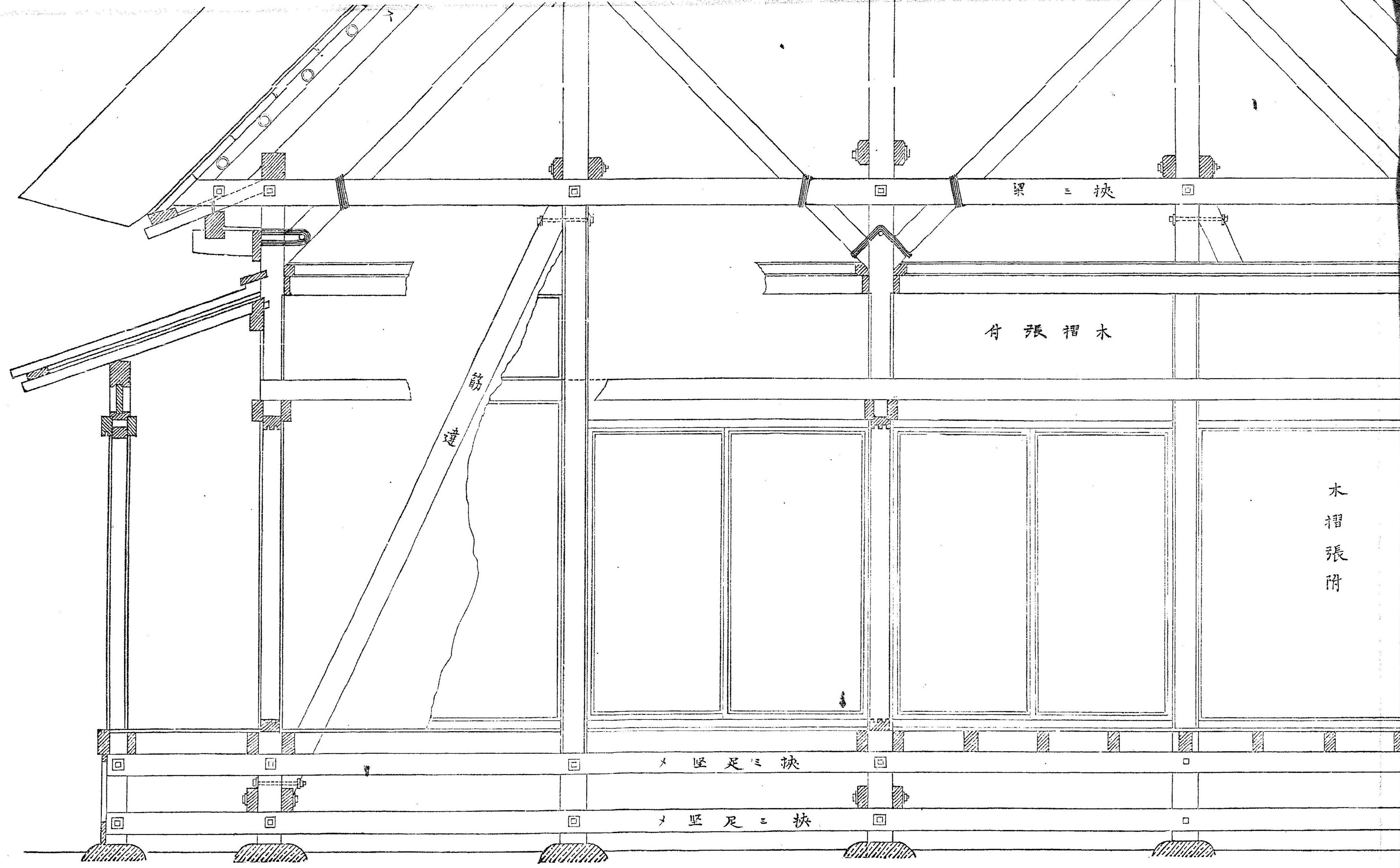
貳拾分ノ壹





八音
 鉄線
 ユヲ用





木摺張附

付張摺木

梁 = 挾

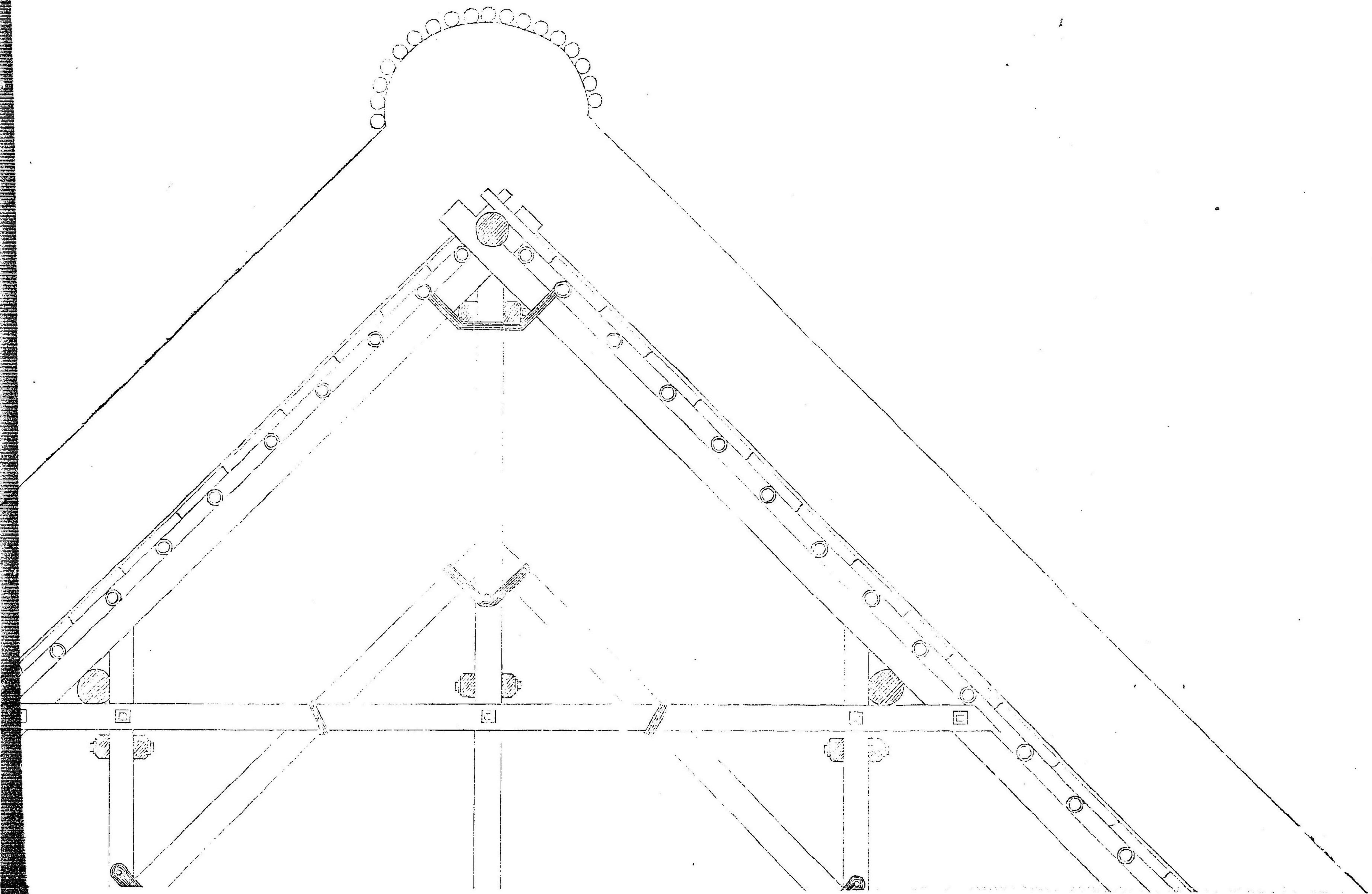
× 竖 足 = 挾

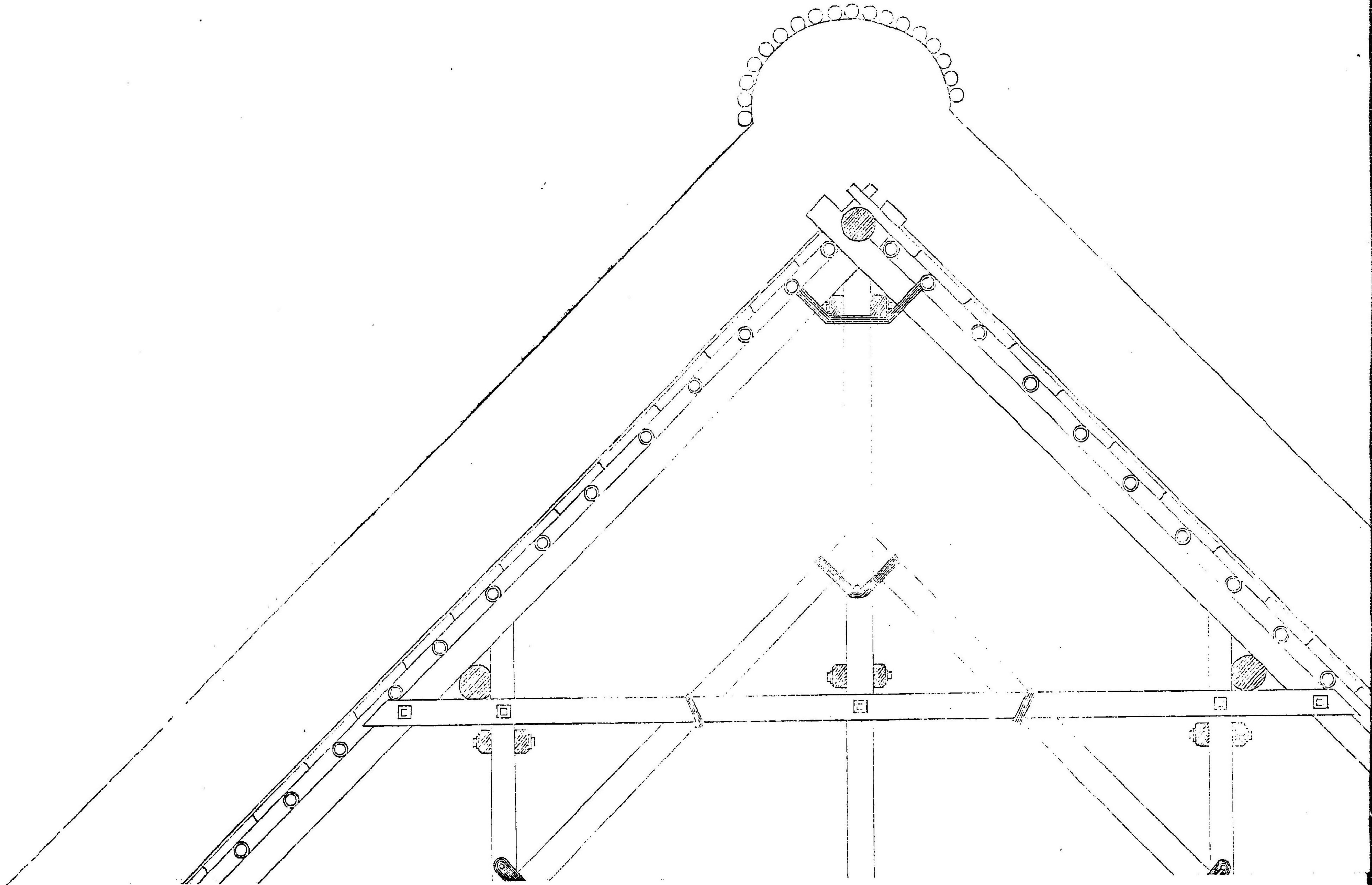
× 竖 足 = 挾

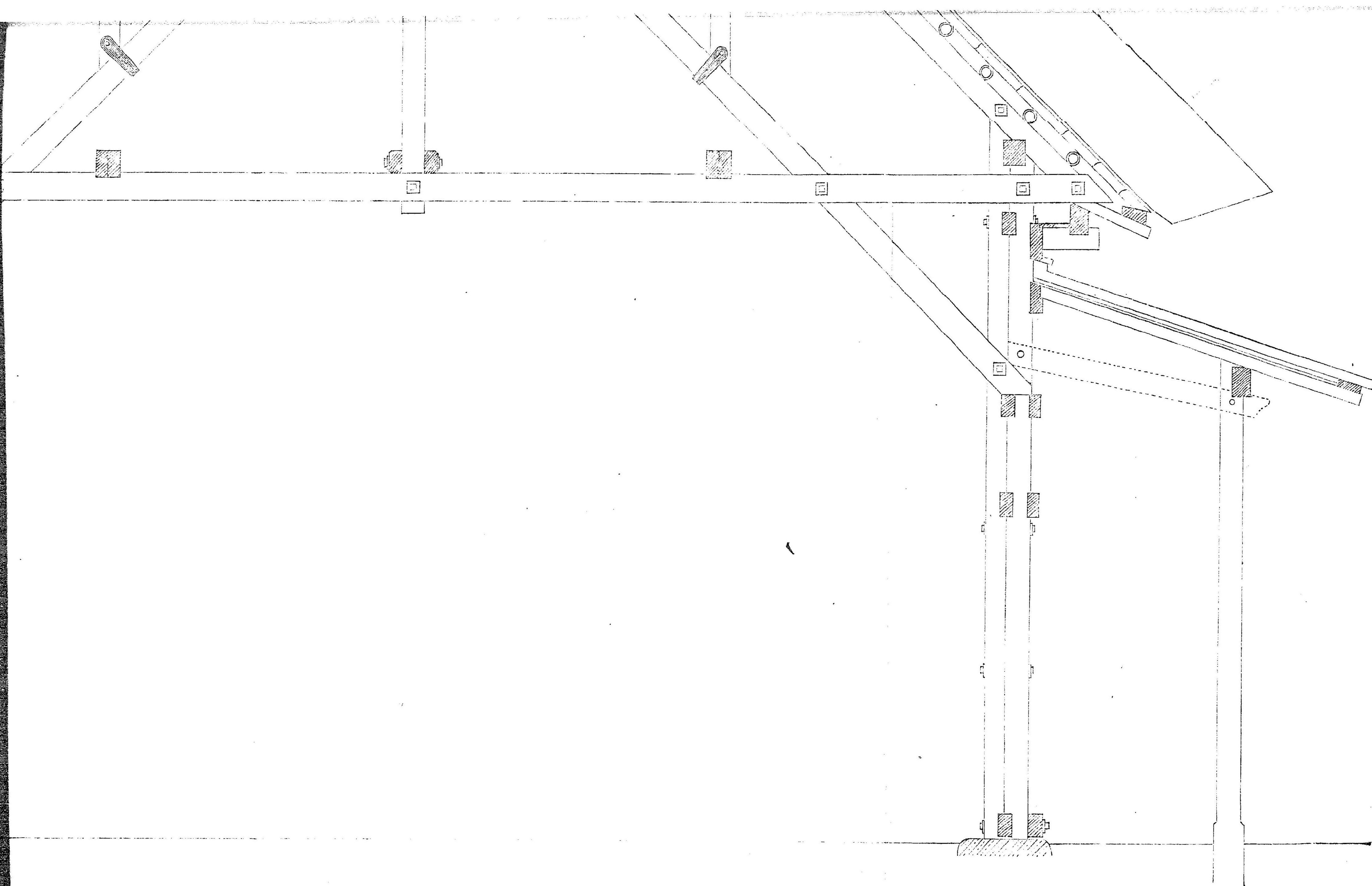
筋 海

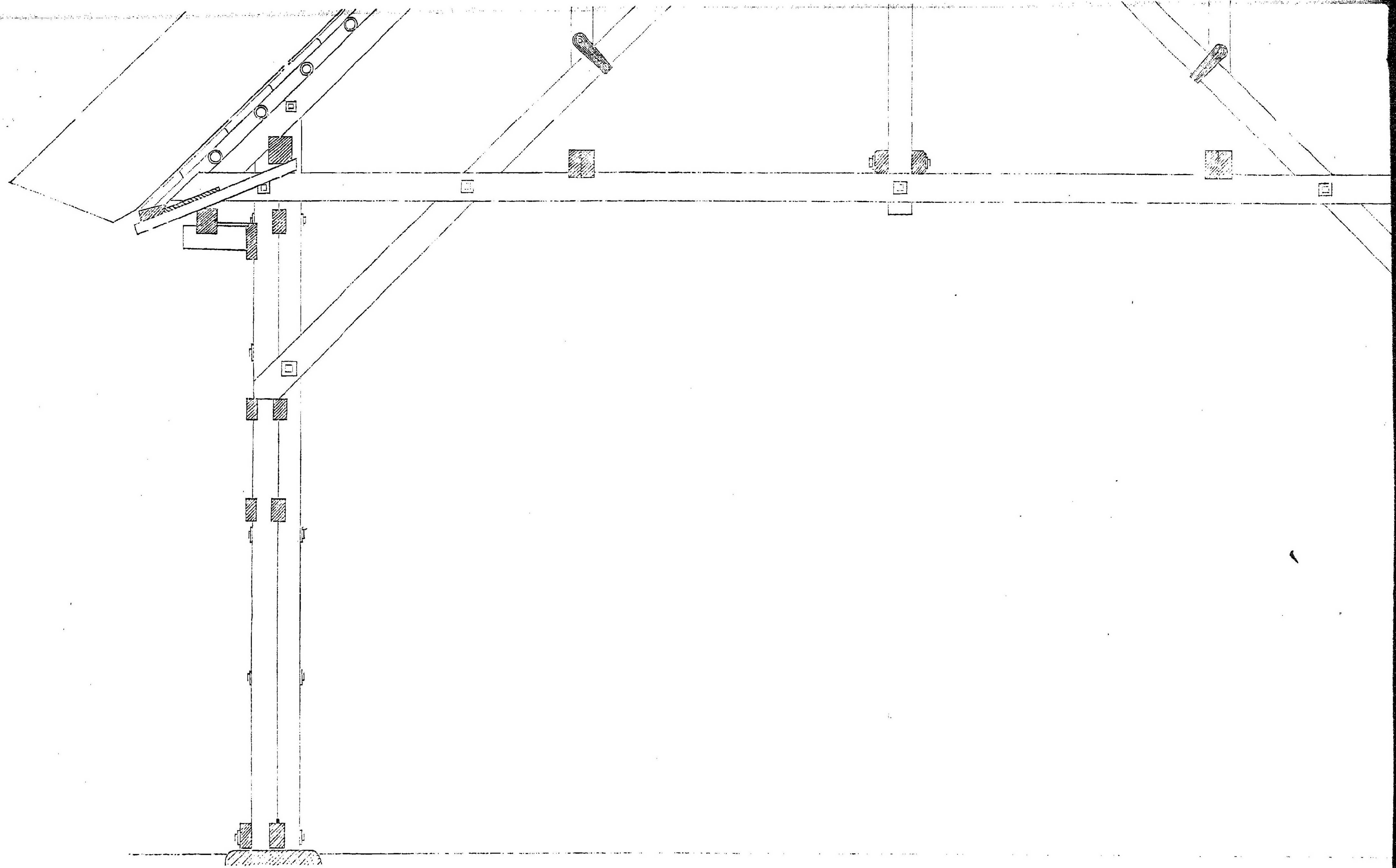
耐震構造農屋之圖乙

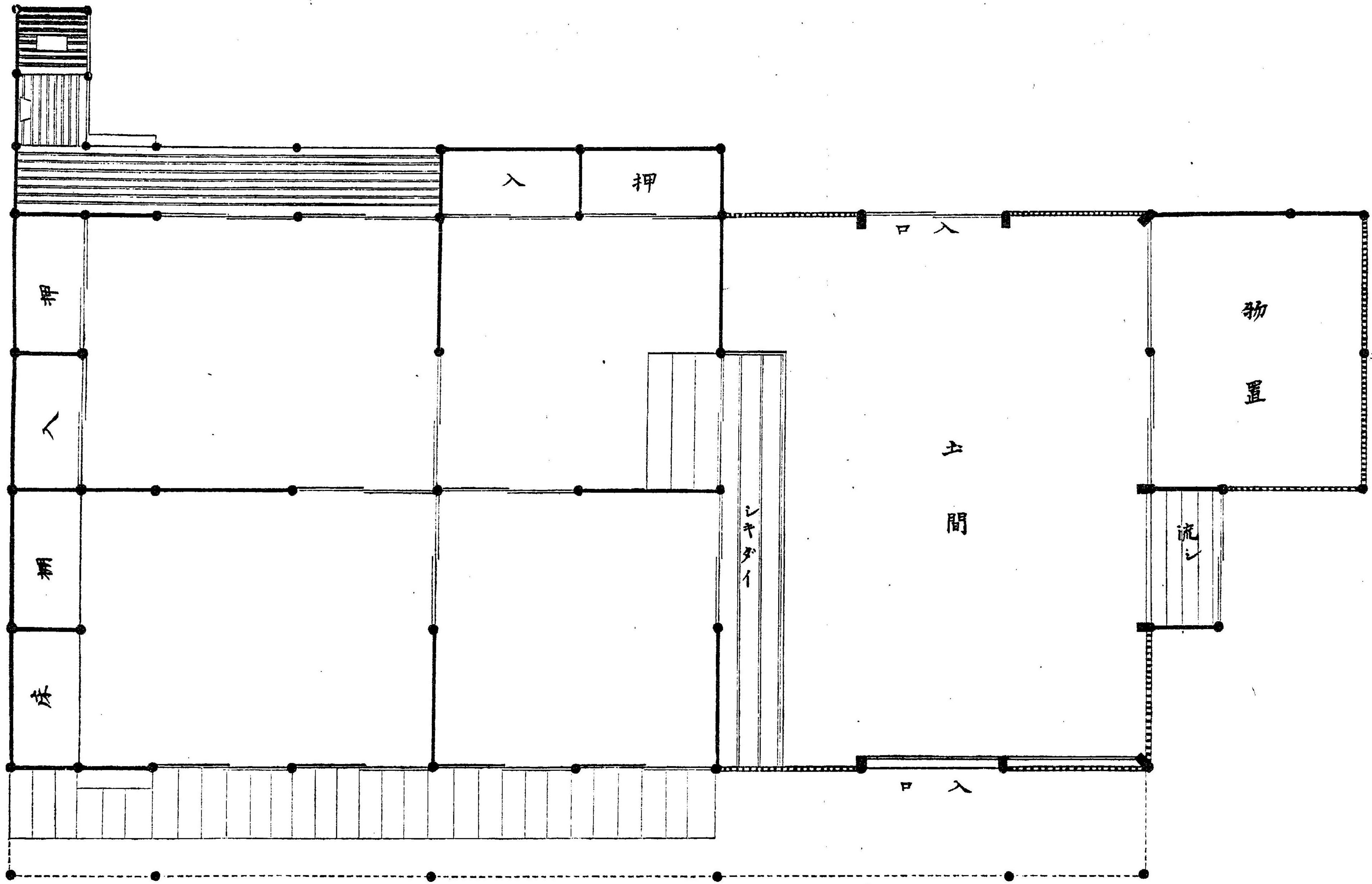
貳拾分ノ壹





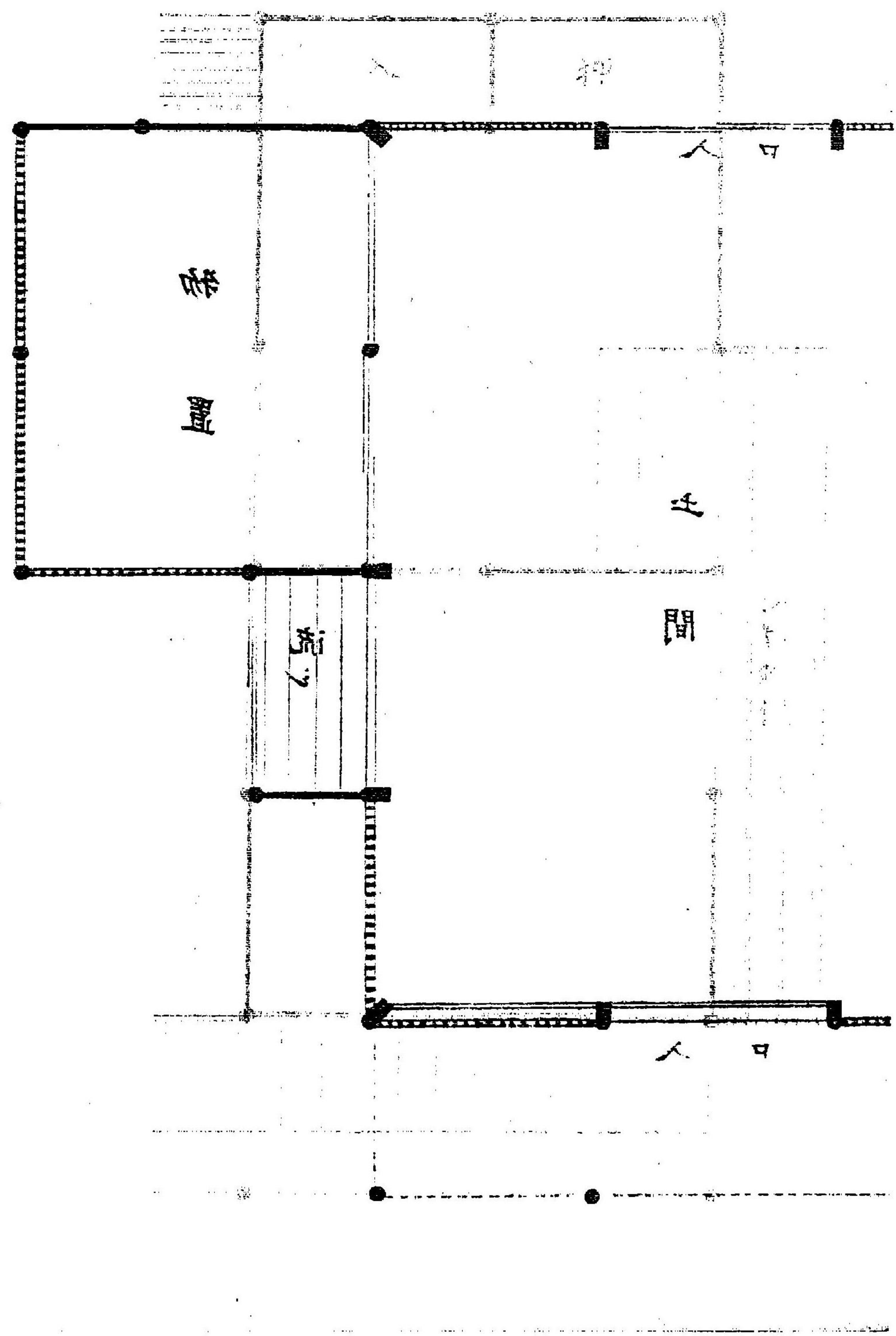






耐震構造農屋之圖 丙

尺度五拾分ノ壹



極震軒並震風之圖 丙

只對正併伏、壹

明治廿八年六月廿九日印刷
 明治廿八年七月二日發行

震災豫防調査會

印刷人 齋藤章達
 東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京製紙分社
 東京市日本橋區兜町二番地

5
9

